

## 学位論文概要「環境情報からのメッセージ」(環境生命学専攻)

名前	指導教員	論題	論文要約
劉 炯昱	松本真哉	新規なビスアゾメチン色素の固体蛍光に関する構造物性相関	ジアミノマレオニトリルとアミノベンズアルデヒドから合成されるビスアゾメチン (BAM) 色素に着目して固体蛍光の検討を進めた。BAM 色素の末端アミノ基の置換基及び側鎖として分子内のフェニル環上にアルコキシ基を導入した誘導体の検討が、蒸着膜での純粋な会合体形成を目指して進められた。得られた膜では、会合体と非会合体が混在した膜になっており、J 会合体の吸収ピークは観測されるが J 会合体に特徴的な強い蛍光は見られなかった。
相場大佑	和仁良二	北西太平洋地域におけるノストセラス科(頭足綱:アンモナイト目)の系統学的研究	ノストセラス科は後期白亜紀の異常巻アンモナイト類の 1 グループである。ノストセラス科のいくつかの属の種間系統関係はこれまで明らかになっていなかった。本研究では、Hyphantoceras 属と Eubostrychoceras 属の殻形態を定量的・定性的に解析し、それらの解析の結果に基づいて、それぞれの属の種間系統関係を明らかにした。本研究によって明らかになった Hyphantoceras 属と Eubostrychoceras 属の系統において、螺旋の捩れ率が緩くなるという共通した殻形態の層序的变化が確認された。
阿久根陽子	松本真哉	ベンジル化ジアミノジシアノピラジン色素の結晶多形析出及び光学特性に関する研究	<p>多形析出予測及び多形材料開発に貢献する分子構造的知見を得ることを目的として、ベンジル化ピラジン色素の一連の誘導体の結晶多形析出要因と光学特性について結晶構造を基に検討した。</p> <p>多形析出の促進には、ジベンジルアミノ基の配座自由度とベンジル基の置換基が関与していた。またこれらの因子は、多形間の発光特性の違いや蒸気応答性にも影響を及ぼしていた。</p> <p>これらの結果より、ベンジル基による分子修飾が、多形析出促進や多様な蛍光特性の実現、刺激応答材料に有用であることが分かった。</p>